

【問題を通してさらに共に成長されていく神の教会】



Christian Praise Church

今日の聖書本文: 使徒の働き5:12-16 ・暗唱聖句: ヨハネの福音書17:11

説教者: 鄭南哲牧師

愛する信仰の家族のみなさん!

アナニヤとサツピラ夫婦の死は聖霊の恵みと愛に満ちていた初代エルサレムの教会においてあまりにも衝撃的な恐ろしい出来事でした。エルサレム教会が祝福され一つになってリバイバルの火が燃え上がろうとしていたその時点で、その出来事の結果初代教会はどうなったのでしょうか? 死んでいく人さえも生き返らせるよう助ける主の教会になるべきであったにもかかわらず、信仰の良さそうに見えていた人たちが死んでしまったと言うことで、教会はまわりの人々にどんなに非難の対象になり、教会の中にはどれほど試みになってしまったのでしょうか。しかし、結果的に神様はこれらのアナニヤとサツピラ夫婦の死の事件の事をおして神の教会は罪や偽りが入れずさらなる揺るがない信仰の強い共同体として成長するきっかけになったのです。

12-14節を一緒に読んでみましょう。

むしろ、初代教会に神様を恐れる心が生じ、教会は新しくされさらなる主の力が現される教会として成長していきました。具体的にこのアナニヤとサツピラの死を通して初代エルサレム教会はどのように変えられたのでしょうか?

1. 主の教会がさらに一つの心となりました。

本文の12節に “みなは一つ心になってソロモン廊にいた”

たしかなのは、初代エルサレム教会の信徒たちは使徒ペテロの一言でアナニヤとサツピラが息を絶えたという場面を見てみんなショックを受けたはずですが、もしも、みなさんはこの姿を直接目撃したならどうされたと思いますか? その結果初代エルサレム教会の信徒たちはこの恐ろしい現場を見てさらに心一つにして集まりました。しかし、注目すべき点があります。そこにはだれでもみんな一つになったわけではありません。この衝撃な出来事によって一つになる前に本物の信仰を持っていた人たちと形だけ持っていた偽者がはっきりと別れるようになったと聖書は証言して下さっています。アナニヤとサツピラの死を見ながら全能なる神をさらに信じるようになった信仰の人々は以前より熱心に集まり、信仰のない者たちは恐れて離れてしまいました。

そういうわけで本文の13節で “ほかの人々は、ひとりもこの交わりに加わろうとしなかったが、その人々は彼らを尊敬していた。” と書かれています。ここで “ほかの人々は” というのは初代エルサレム教会に属してない信じていない人々を言います。彼らは信じない人々は恐れて交わろうともしないで離れていきました。なぜならアナニヤとサツピラ夫婦が主の教会で死ぬのを見て、自分たちもどのようにされるか恐れていたのです。みな離れて行ったのです。しかし、信仰の人々は集まりました。

これを聖書で “一つ心になって” と表現しましたが、これは復活されたイエス様を救い主として告白する信仰が一つになり、聖霊の神のしるしと不思議な御わざを体験することによりみんなただイエス様のみを一つになって見上げたと言う意味になります。

レンズが光を一つのところに集めると火を起こすことができるように、聖書とキリスト教歴史を調べると、信仰の同じ人々が一つの心になるとさらにすばらしい御業が起こされてきました。

たとえば、サムエル記 第一7章で、サムエルの預言者時代、イスラエルの民はペリシテ人たちのことで、ずっと悩まされていました。それでサムエルは “全イスラエルをミツパに集めなさい。私はあなたがたのために主に祈りましょう” と言って、イスラエルはミツパに集まって一日断食しながら “私たちは主に対して罪を犯しました。” と告白しながら大々的な悔い改めをしました。

ところが、ペリシテ人はミツパに集まったイスラエルが彼らと戦争をするために集まったと勘違いして、イスラエルと戦うために攻めてきました。イスラエルの民は恐れてサムエルにお願いします。 “我々のために私たちの神、主に祈るのをやめないで、我々をペリシテ人の手から救ってくださるよう祈ってください。” そうしながら全イスラエル人は神様のみに切に頼る信仰の一つの心となって神様の助けを待ち望みました。それで、神様はペリシテ人の上に、大きな雷鳴をとどろかせ、彼らをかき乱して、敗北させました。ですから、教会はみんな各自自分の心の意見ばかり主張しながら対立しないで、信仰の心一つにしなければならないことはどんなに強調しても言い過ぎではありません。

事実初代エルサレム教会はいろんな国から来た人々が集まったので、言葉も違い、文化も違いましたが、心一つにしました。このように問題となやみをおしてさらに心が一つになることが主の教会の特徴であり、そうならなければならない。

マタイの福音書10:1-4節はイエス様が選んだ十二人の弟子たちの名前が出ていますが、おもしろいのはイエス様の弟子の中には取税人マタイがいて、熱心党员シモンがいます。なぜ、これがおもしろいかというと “取税人” はローマ帝国のために同族イスラエルの民に税金を取る仕事をしていたので、ユダヤ人たちは取税人を遊女や罪人のよ

うに嫌っていました。“熱心党员”という意味はガマラのユダヤが主後6年にグレニョ総督が国勢調査をするのに反抗するために組織された団体としてローマ帝国からイスラエルの独立を取るために暴力さえも使うゲリラ団体です。そういうわけですから、取税人と熱心党员が会うということは二人のうち一人が死ぬまで血を流しながら戦うほど中が悪いのです。なのに、イエス様の弟子となって3年間もともに食べ、過ごしたわけです。これは人間の思いではどうしても理解できない関係だとしても、主にあつてのみ一つとなれるということですので、教会も心一つにして共同体になることができます。

しかし、覚えるべきことは、心一つにしたということは水平(すいへい)関係での一つではなく、垂直(すいちよく)の関係においての一つを意味していて、それは神様の御言葉に従うことによって一つになったと言う意味です。これは会議を開いて心一つにするようにと決めたのではなく、みんなただ神様の御言葉に従うことによって自然一つになったと言う意味です。ですから、ほかの人はともかく、自分がまず御言葉に従おうとすれば、エルサレムの教会のように信じる人々の心がさらに一つになっていく御業が表されると信じます。

2. 主の教会が以前よりさらなる大胆さと勇気を得ました。

主の教会が一つになって何をしたのでしょうか。本文の12節に“みなは一つ心になってソロモンの廊にいた”と書かれています。ここで“ソロモンの廊(ろう)”は当時エルサレム聖殿の東の外壁を沿って玄関のように作った建物であつて、やねと172個の大きい石の柱だけのところで壁がないので、だれでも見られる公に集まることができる広いところでした。

当時エルサレム聖殿はヘロデ王がユダヤ人たちの機嫌を取るために約46年間代金を出して建てたので、ヘロデの聖殿だとも言われてました。特に初代エルサレム教会の信徒たちがここのソロモンの廊に集まったということ聖殿の真ん中で誰にでも公に主イエスキリストが十字架で死なれ、復活された事を証したと言う意味になります。

ところが、エルサレムの宮の真ん中でイエス様の復活を証したということはイエス様を死なせよとした当時宗教指導者たちへの正面衝突するようなことだったので、これによって迫害を受けるようになるのは当然のことでした。しかし、初代エルサレムの教会の信徒たちは宮の真ん中で“あなたがたが殺したイエスを神様が生き返らせ、ふたたび裁き主として来られる”と宣べ伝えました。これは使徒たちだけではなく全信徒たちが心一つにしてともにいたのです。このような勇気はどこから来たのでしょうか。それはイエスキリストの復活信仰をもっていたからです。つまり、イエス様のように死ねば、イエス様のようにふたたび生き返らされるという復活信仰があつたので、迫害も、死も恐れなかったのです。我々はどうでしょうか。あまりにも安逸に信仰生活をしている面はないでしょうか。

しかし、イエス様はマタイの福音書10章34節で“わたしが来たのは地に平和をもたらすためだと思つてはなりません。わたしは、平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのです。”と言われました。

ですから、我々も堂々とイエス様を信じているのだとはっきりと宣べ伝えなければなりません。

しかし、今日のクリスチャン信徒たちは教会の中で礼拝は守り、早朝の祈り会も参加し、聖書の学びも熱心にやりますが、一つ弱いことが教会の外での事ではありませんか。特に伝道することです。確実なのは伝道とは理論ではなく、人にあつて福音を伝えることであり、福音を伝えるとき、すばらしい御業が起こります。これを第一コリント1章27節で“しかし、神は知恵あるものはずかしめるために、この世の愚かなものを選び、強い者はずかしめるために、この世の弱いものを選ばれたのです。”と言っています。

本文の15-16節では、初代エルサレム教会の信徒たちは病気のひと、汚れた霊に苦しめられている人々まで連れて来ては、みな癒されるようになりました。大切なことはどんな状況の人々であつても連れて来ることが先に信じた人々がやるべきことでした。

そういうわけで、イエス様はマタイ28章19節では“それゆえ、あなたがたは行ってあらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。”と言われました。

これを言い換えると、神様は我々に救いの恵みを与えてくださった後、すぐ、神様の御国にまねいて神様に賛美と栄光をささげるようにさせないで、この世に残してくださったのはイエス様を知らない人々を伝道するためなのです。

3. 主の教会がさらに賞賛を受ける教会となりました。

本文の13節に“その人々は彼らを尊敬していた”と書かれています。ここで“その人々は”はイエスを信じてはいませんが、教会に対して良いイメージを持っている人たちです。ローマ時代は我々の想像を超えるほどイエス様を信じていた人たちは250年間の耐え難い多くの迫害を受けました。そんなそんな迫害を与えたローマがAD313年にコンスタンティヌス皇帝によってキリスト教の自由と国教(こっきょう)として公認しました。どうやってローマがキリスト教の国に変わったのでしょうか。いろいろと説明があると思いますが、何よりもローマのクリスチャンた

ちが尊敬される行き方をしたからだと思います。当時の記録によると、ローマの社会は淫乱と不正と腐敗によって乱れていました。その中でクリスチャンたちはさらに迫害を受け、たとい、財産もなく、権力もなく、苦しい生活でもしていましたが、彼らの生活は純粹で、親孝行をし、家庭を大切に、勤勉であり、隣人たちに対する愛の持て成しと思いが違ったためローマの貴族たちの中でますます子供たちの結婚相手を探す時、クリスチャンの中で探すケースが増えていたようです。そういうわけで、ローマの社会にキリスト教の信仰が急速（きゅうそく）に広がり、ついに当時世界を征服していたローマ帝国がキリスト教の国家となりました。こんにち、我々の姿はどうでしょうか。みなさんは信じてない人々に尊敬と賞賛を受けているでしょうか？やっぱりクリスチャンだから違うね！と聞いていますか。みなさんはイエス様を信じてから変えられたという話を聞いているのでしょうか？大切なのは初代エルサレムの教会は教会の外にいるイエス様を信じてない人々から家庭生活、社会生活など尊敬された結果が本文の14節の“主を信じる者は男も女もますますふえていった。”です。ですから、イエスを信じる人々は信じてない人々から尊敬され、認められる生活の行き方をしなければなりません。

4.主の教会にさらなる信仰の力が与えられました。

本文の15-16節で“ついに、人々は病人を大通りへ運び出し、寝台や寝床の上に寝かせ、ペテロが通りかかるときには、せめてその影でも、だれかにかかるようにするほどになった。また、エルサレムの付近の町々から大勢の人が、病人や、汚れた霊に苦しめられている人などを連れて集まってきたが、その全部が癒された。”と書かれています。これは本文の12節の“また、使徒たちの手によって、多くのしるしと不思議なわざが人々の間で行われた。”ことの具体的な内容です。

ここで、我々が考えてみたいことは、使徒たちの手をとおしてしるしと不思議なわざがたくさん行われ、癒されるために病人たちを連れてきたら直接使徒たちに祈ってもらえば良かったのに、なぜ、道端に寝かせておいてペテロが通りかかる時影でも、覆われるように待つ消極的な行動をとったのでしょうか？

その理由は主の教会の上に、そして、使徒たちから始め信じて者たちに神から与えられている霊的な力がある事を知っていたので恐れていたからです。病人が癒される神の御業も起こりましたが、アナニヤとサツピラ夫婦のように自分たちが若干間違えば、その場で死ぬかもしれないという恐れがあったため積極的に出られなかったのではないかと思います。

なぜ、このような話も聖書に記録しておいたのでしょうか？今日も主の教会の中で、主の教会を通して、信じる者たちを通して働いておられる聖霊の神が今日も神のしるしと御わざが行われるのを望んでおられるからです。同時に、今日等しく信じる我々にもこのようにさせて下さると言う約束でもあります。ですから、我々の教会においてもこのような聖霊の神様が満たし主の御業が表れる様に切に祈り、望まなければなりません。かならず同じのでき事がではなくても信じて祈れば悪霊が出て行き、病が癒され、人が回復され、新しい人生を送ることができるように変わる事を共に願いましょう。なぜなら、初代エルサレムの教会とともにおられた神様はいまも生きておられ、世の終わりまで、我々とともにおられると約束されたからです。主の血潮によって買い取られた主の教会であるクリスチャンプレイズ教会にもこのような神様の御業としるし豊かに表れ、多くの人々が信じて、救われ、回復されていく教会としてさらに用いられるように信じ祈って行きましょう。

メッセージを終わらせたいと思います。

親愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！！

あの御国の教会ではない、この地上の教会は救われた罪人が集まったところなので、当然完璧な教会ではありません。問題がない教会はどこにもありません。問題がないように見えるだけです。教会内の問題のため教会が苦しまれ、試練を受けるときもあります。

しかし、確実なのは、聖霊がともにおられる主の教会なので、かならず、その問題をとおして初代エルサレムの教会のようにさらに教会が一つになり、さらなる聖霊の恵みと力が与えられ力強く建てられていくということです。我々のクリスチャンプレイズチャーチもこれからどんな問題が生じ、ぶつかるか分かりませんが、この問題を恐れないで、生きておられる神様のみを恐れていきましょう。そして、かならず、聖霊が働いて我々のクリスチャンプレイズチャーチも神様の力と恵みが与えられ、堅く立たせ、力強くなっていくことを信じて、確信とともに進んでいく信仰の家族となりますよう共に一つとなって行けますように主イエス・キリストの御名によって祝福します。

アーメン！